

ルーヴル美術館の 銅版画展

カルコグラフィイー コレクション

La Chalcographie du Musée du LOUVRE



「ルーヴル旧館正面の眺め」ジャック・リゴー



「男の肖像」ルーカス・フランコイス作とみなされる(アンソニー・ヴァン・ダイクのスタイルによる)

2019年
1月18日(金) — 2月19日(火)

※会期中無休

開館時間 午前9時30分～午後5時30分(入館は午後5時まで)
入館料 一般1,000円(4枚セット券3,000円) / 大学生800円 /
高校生500円 / 中学生以下無料

主催 公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム
後援 中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、NHK津放送局、三重テレビ放送
協力 RMN-GP(フランス国立美術館連合ーグランパレ)、
ルーヴル美術館カルコグラフィイー室、amf(アジャンス・デ・ミュゼ・フランセ)
映像提供 DNPアートコミュニケーションズ(MMM)
企画制作 NHKプラネット近畿、ステップ・イースト

関連
イベント

記念講演会
1月27日(日) 午後2時～ 講師 中村 隆夫氏(本展監修者、多摩美術大学教授)
パラミタコンサート
1月20日(日) 午後2時～ 「冬に贈る愛想曲集 ～ルーヴルに寄せて～」
岩根 衣李(ヴィオラ)、本多 万祐子(ピアノ)

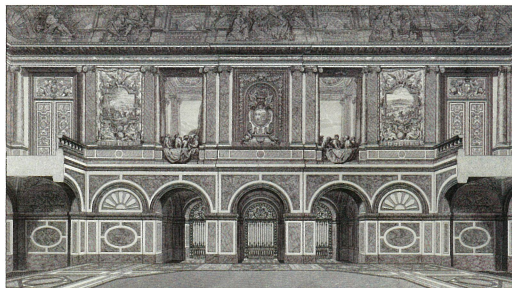
ルーヴル美術館の 銅版画展

カルコグラフィー
コレクション

La Chalcographie du Musée du LOUVRE



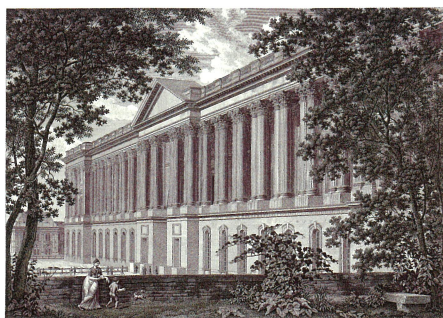
「連作(四季-秋)」ニコラ・ランクレ



「ヴェルサイユの大階段の内観」ジョゼフ＝マリー・シュヴオテ



「美しい家庭師」ラファエル・サンツィオ



「アンジヴァリエ邸の庭から眺めたルーヴル宮の柱廊」
ルイ＝ピエール・バルターール



「アルム広場の風景」イスラエル・シルヴェストル



「メロー＝ウルガリス(メロン)」ニコラ・ロベール



「サビニの女たち」ジャック＝ルイ・ダヴィッド

数多くの名画を所蔵し、世界屈指の美術館として名高い「ルーヴル美術館」。そこには、私たちが見る機会の少ないデッサンや版画などを扱うグラフィック・アート部門があり、その所蔵数は10数万点ともいわれています。中でも、特に歴史が古いのは銅版画「カルコグラフィー」です。このルーヴル美術館カルコグラフィー室は、ルイ14世の治世下起こった重要な出来事を世に広めるために「王の版画原版収集室」として設立され、1797年国立カルコグラフィーコレクションが誕生しました。19世紀、20世紀には現代作家による新作を加え、コレクションはさらに充実し拡大し続けています。これらは長きにわたるルーヴルの歴史、栄華の象徴たるヴェルサイユ宮殿、ルネサンスから現代までの絵画の記録など、ルーヴルが収集し蓄積してきた知と情報、そしてなじみ深い名画の数々をわかりやすく伝えてくれます。

本展ではルーヴル美術館カルコグラフィー室の銅版画コレクション約13,000点の中から、日本での特別公開のために、当時の版を使い刷られた銅版画約130点を展示します。

次回展示のお知らせ

2019. 2/23[土] ▶ 3/31[日] エロール・ル・カイン 絵本原画展

「イメージの魔術師」と呼ばれたイギリスの絵本作家エロール・ル・カイン(1941~1989)。彼が描く東洋と西洋の美術様式が融合した幻想的な絵には、豊かな色彩があふれています。細密な描写による装飾性と多様なタッチ、繊細かつ大胆な構図の面白さなど、ル・カインが描きだす世界は魅力に満ちています。本展では原画やスケッチなどで、その魔術の秘密に迫ります。

■お車をご利用の場合／東名阪[四日市I.C.]より国道477号(湯の山街道)を湯の山方面へ約6.5km。 ■無料駐車場有り(普通車100台、大型バス駐車可)
■電車をご利用の場合／近鉄[四日市駅]下車、近鉄湯の山線に乗り換え約25分。「大羽根園駅」下車、西へ300m。 ■全館バリアフリー、車椅子常備

